

令和6年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の令和4年8月号（第75巻第8号）から令和6年7月号（第77巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は第42回獣医学術学会年次大会（令和6年度）において発表された地区学会賞の中から、「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から選考委員会において厳正に審査され、以下のとおり受賞者及び受賞研究業績を選考した。また、後日、本賞（賞状）及び協賛会社（日本全薬工業(株)、共立製薬(株)、日本ハム(株)）からの副賞（研究奨励金20万円）がそれぞれ受賞者に授与される（令和6年度の獣医学術賞の発表は、第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和6年度）において実施された。）。

令和6年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

牛伝染性リンパ腫ウイルス *pol* 遺伝子を標的とした
プロウイルス量に基づく伝播リスク分類基準の設定

西森朝美（農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門），他

〈選考理由〉 本論文は、家畜衛生上の大きな問題となっている牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）対策に関して、BLVのプロウイルス量を測定可能なキットのうち、*pol* 法による伝播リスク分類基準の設定を目的として調査したものである。*pol* 法の基準値による判定は、既存のLTR法による判定とほぼ一致したことから、農場におけるBLV対策として有用であることを明らかにした。農場におけるBLV対策において新たな選択肢となる効率的な方法を提供し、臨床現場への普及が期待されるものであることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

黒毛和種子牛の呼吸器病における初診時の胸部超音波
検査によるスコア化と呼吸器症状および発育との関係

叶 有斗（鹿児島県農業共済組合曾於，他家畜診療センター南部診療所），他

〈選考理由〉 子牛の呼吸器病は、原因微生物と病態が多岐にわたり、その後の発育にも影響することから、臨床的に重要な疾病である。本研究は、多くの患者を対象として初診時に胸部超音波検査を実施し、これをスコア化して呼吸器症状や発育との関連を明らかにしたものである。研究成果は子牛で問題となる呼吸器病の

診断と病態把握に対して新たな選択肢を提供するものであり、抗菌薬の使用低減と臨床現場への普及活用が期待されることから、獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

黒毛和種牛における代謝性疾患の防除に関する研究

片本 宏（元宮崎大学・教授）

〈選考理由〉 片本 宏氏は、黒毛和種牛の代謝性疾患、特に腹腔内脂肪壊死症の発生機序の解明、その治療及び予防法の開発への取組を行うとともに、生産現場においては地域畜産業の発展に貢献された。また、大学教員として教育研究及び診療活動に取組み、研究成果を学術雑誌に公表するとともに、現在も教育現場で活動を続け、獣医学術の発展と後進の指導育成に尽力されている。さらに、同氏は、本会と本学会の運営に長年にわたり多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞の授与がふさわしいと判断した。

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

僧帽弁粘液腫様変性犬における椎体長に依存しない
心サイズの評価法に関する検討

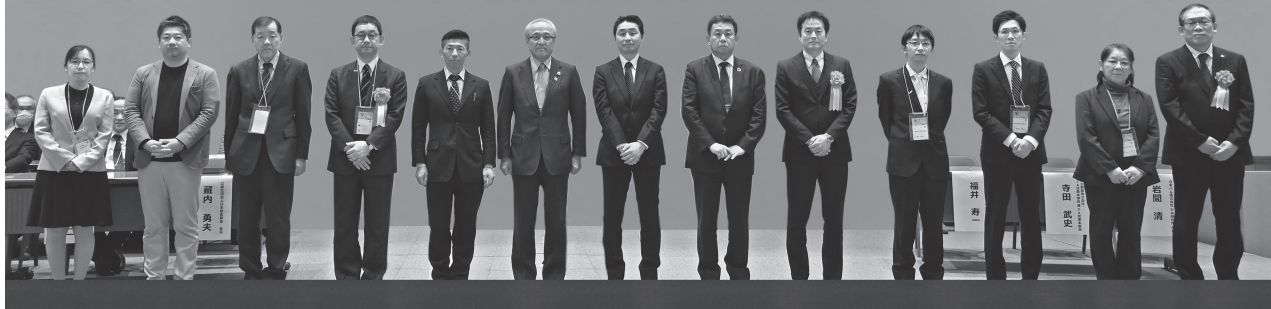
才田祐人（矢田獣医科病院・石川県），他

〈選考理由〉 本論文は、僧帽弁粘液腫様変性犬を対象に、椎体長を使用しない心サイズ評価法を検討したものである。臨床例を対象にしているため犬種の偏りがあるものの、論文で説明されている方法は従来法よりも簡便であり、一般臨床の現場で容易に臨床応用できることから本論文の臨床的意義は大きい。これらの



令和6年度 日本獣医師会獣医学術賞 発表と授与式

日本獣医師会獣医学術賞協賛企業:日本全薬工業株式会社・共立製薬株式会社・日本ハム株式会社



令和6年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者及び協賛各社

左から西森朝美、叶 有斗、片本 宏、福井寿一（日本全薬工業㈱代表取締役社長）、才田祐人、藏内勇夫（公社日本獣医師会会長）、木村一気（代理）、武部正美（代理）、寺田武史（共立製薬㈱ CA 営業本部長 兼 PA 営業本部長）、大野祐太、星野勇矢、植田富貴子、岩間 清（日本ハム㈱中央研究所所長）（敬称略）

ことから本論文は獣医学術奨励症にふさわしい研究として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

犬における喉頭蓋後傾の病態，病理組織学検査および喉頭蓋切除術に関する考察

木村一気（AMC 末松どうぶつ病院・大分県），他
〔選考理由〕 喉頭蓋後傾は，犬に上気道閉塞を起こす重要な疾患である。そのため上気道内視鏡検査を実施した症例に対し，喉頭蓋後傾の原因となり得る気道疾患との関連性及び治療成績について回顧的に調査した。その結果，気道内視鏡検査を実施した犬の50%に喉頭蓋後傾が認められ，さらにそのうち外科的治療が必要であった症例が12%程度存在することを見出した。また，処置後の評価の重要性についても多数の症例を解析することで臨床的に貴重な情報を提供した。この成果は，喉頭蓋後傾に対する重要な情報を提示するもので，獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

小動物分野における麻酔ならびに行動学に関する実践的研究

武部正美（武部獣医科医院・院長）
〔選考理由〕 武部正美氏は，診療の傍ら「小動物の行動学」に関する海外の専門書の翻訳・出版を通じて，日本の小動物臨床獣医師に対する専門知識の提供ならび

に飼い主教育に取り組まれ，小動物獣医療分野の専門家として一貫して小動物臨床の発展に尽力してきた。また，獣医麻酔学における研究も積極的に実施し，犬の外科手術に応用する注射麻酔薬の重要性について多くの情報を臨床獣医師に提供した。さらに武部氏は昭和45年に獣医師会に入会して以来，横浜市獣医師会の理事や地区学会幹事として学会運営や座長・審査員などを長年にわたって務められたことから，その功績は獣医学術功労賞にふさわしいと判断された。

〔公衆衛生部門〕

〔獣医学術奨励賞〕

と畜検査で発見された慢性型豚丹毒と生ワクチンの関連

大野祐太（北海道立衛生研究所），他
〔選考理由〕 本論文では，北海道内で関節炎型豚丹毒が多く発生した農場の豚において，その原因菌が野生株であるかワクチン株であるかをPCR法ならびに全ゲノム解析を用いて検討している。その結果，本来豚丹毒の発生を予防すべき生ワクチン由来株が豚丹毒の発生に関与していることを明らかにした。これらの成績は，生ワクチンによる豚丹毒防疫計画を再検討する上での貴重な資料になり得ると思われることから，本論文を獣医学術奨励賞に推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

行政施設を活用した猫のスパイククリニック開設に向けて ～にゃんがたセンタークリニック 猫の不妊手術専門病院～

星野勇矢（新潟市動物愛護センター）、他

〈選考理由〉 本研究は、近年、社会問題化している猫の多頭飼育崩壊に対し、行政、民間の動物愛護団体及びボランティア獣医師が協力して進めたプロジェクトである。具体的には、市の動物愛護センター内に猫のスパイク専門の手術室開設し、多数の猫の不妊手術を可能にすることで、殺処分減少に取り組んでいる。資金の確保が難しい中でクラウドファンディングを活用し、社会に向けて本プロジェクトの趣旨を理解してもらうとともに、安価に不妊手術を行うといった新たな運営手法を見出した点も評価できることから、獣医学術学

会賞にふさわしい研究として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

環境汚染モニタリングのための生物学的指標、及び *Listeria* 属菌に係る衛生対策に関する研究

植田富貴子（日本獣医生命科学大学・名誉教授）

〈選考理由〉 植田富貴子氏は日本獣医師会学会誌編集委員会委員を務めるとともに、日本獣医公衆衛生学会の副学会長として学会の運営に尽力された。研究面では、野生動物を利用した環境モニタリングの手法を新たに開発し、特にカドミウムや鉛などの有害重金属の環境汚染について精力的に研究されてきた。以上の理由から、植田氏は獣医学術功労賞を授与されるにふさわしいと判断した。